

BL系同人作家のメディアに対する期待度の違い —同人誌即売会で本を出版する理由—

長谷川 真穂

BL系二次創作を行う同人作家は、同人誌即売会に参加する際に多額の費用や時間がかかる。近年ではpixivを利用してオンライン上で漫画を公開したり、Twitter上で漫画を投稿したりする人も多く、そういったオンライン上で漫画を投稿するサービスは基本的に無料で利用が可能である。本研究は、多額の費用や貴重なプライベートの時間を削って同人作家が同人活動を続けている理由を明らかにすることを目的とする。

先行研究として、今井(2014)はコミックマーケットを主とした同人誌即売会の「祭り」性について説明しているが、これは売り手に着目した研究ではない。本研究では、同人誌即売会に売り手として参加する同人作家が同人活動を続ける理由を明らかにするため、半構造化インタビューによる質的調査を行った。調査対象者は同人誌即売会に売り手として参加する同人作家の5名である。研究の見通しとしては、同人活動を続ける理由に、同人誌即売会に「お祭り」を求めていること、出版へのあこがれがあることの、2点を挙げた。

調査の結果、出版へのあこがれの中でも本へのあこがれを感じている人が多いことが分かった。本へのあこがれと一口に言っても、形に残ること、本の匂い・本を出すことで感想がもらえるといった様々な意味合いを持っていた。他方、同人誌即売会という空間自体に価値を感じている、すなわち同人誌即売会の「祭り」性に惹かれている人も見られた。

個々人の語りから、本という形で作品が手元に残ることを重視している人は小さい頃から漫画・小説どちらかのみでも日常的に本を読んでいた人が大半を占めていることが明らかになった。また同人誌即売会の「祭り」性に惹かれている人は、会場で売り手や買い手関係なく人との交流を楽しんでいることが分かった。さらに自分が描いているカップリング(キャラクターの組み合わせ)こそが正義だと考えており、他のカップリングが好きの人にこそ自分の作品を読んでほしいと思っている人も見られた。このインフォーマントは自分の解釈を広げていく道具として同人活動をしており、同人活動を「手段」として見ている。またオタク文化を好まない親のもとで育っており、他のカップリングに対して不寛容である部分は親のオタク文化に不寛容な部分と共通している。これに対してこのインフォーマント以外の対象者はオタク文化に寛容な親のもとで育っている。

本へのあこがれがある人は小さい頃から日常的に本を読んでいた経験が現在の同人活動を形づくっていると考えられ、「祭り」性に惹かれている人は同人を通じた交流を同人活動の醍醐味としている人が多いと考えられる。またオタクに不寛容な親のもとで育ったインフォーマントは自分の解釈以外の原作に対する解釈を認めないという点である意味不寛容な活動をしていると言える。

以上から、当初の見通しに沿う本へのあこがれがある人は小さい頃の読書経験とオタク文化に寛容な親が現在の同人活動を形づくっている。他方で見通しに沿わない本へのあこがれが見られない人はオタク文化に不寛容な親のもとで育ち、同人活動を手段として見ており自分の解釈を「布教」することを重視している。また同人活動に対する「神の方向性」の違いが同人活動を続ける理由の違いを生み出している。

(指導教員 後藤嘉宏)